

## 「第3回 あおもりの農山村フォトコンテスト」 入賞作品一覧

### 農山村の風景部門・テーマ「食」

各 賞	題 名	氏 名
最優秀賞	ナガイモの郷（東北町甲地）	松橋 洋司
優 秀 賞	ぼくが握ったおにぎりいただきます。（青森市荒川）	宮本 尚子
//	彩る秋へと続く道（弘前市）	田中 幸樹
入 選	霞み美の郷（つがる市平滝）	館山 昇
//	柿シャワー（南部町名久井）	市川 清一
特 別 賞	つがる富士とりんご（黒石市）	三戸 俊彦

### 人々の暮らし部門・テーマ「笑」

各 賞	題 名	氏 名
最優秀賞	早乙女に恋した馬（南部町剣吉）	工藤 茂雄
優 秀 賞	おじいちゃんの手作り（平川市新屋）	竹浪 和歌子
//	あのね（八戸市南郷）	市川 清一
//	さなぶり終えて笑顔に（五所川原市金木）	相馬 勉
入 選	カッチャ手どら（五所川原市高野）	佐々木 博光
特 別 賞	自然米づくり（中泊町亀山）	加藤 正一

## ～ 農山村の風景部門 ～

最優秀賞 ながいもの郷（東北町甲地）／ 松橋 洋司



**【講評】** どこまでも続くナガイモ畑。鮮やかに黄変し、秋色に輝いて見えます。なだらかな丘陵地帯のやや高い位置から撮影したことで、広い畑作地帯のスケールが実感できます。これから、つる切りの作業が始まるのでしょうか。駆け足でやってくる冬に向け、農家は忙しい日々が続きます。秋の深まりをしみじみと感じさせてくれる作品です。

---

優秀賞 ぼくの握ったおにぎりいただきます。（青森市荒川）／ 宮本 尚子



**【講評】** 黄金色の稲と真っ青な空をバックに両手でおにぎりを頬張る男の子。満面の笑みに、思わず吸い込まれてしまいそうです。生き生きとした表情がこの作品のすべてですが、自分で握ったおにぎりは間違いなくおいしいはずですよ。

優秀賞 彩る秋へと続く道（弘前市）／ 田中 幸樹



【講評】紅葉が進む岩木山へ延びる一本道。空には秋のうろこ雲が広がり、山を包んでいます。道沿いではリンゴが真っ赤に熟し、秋の風情が漂います。岩木山が雪化粧し、一本道が雪で覆われるのももうすぐ。それにしても「彩る秋へと続く道」とは、ずいぶん詩的で、凝ったタイトルです。

---

入選 霞み美の郷（つがる市平滝）／ 館山 昇



【講評】つがる市平滝地区で続く初夏の風物詩ジュンサイ採り。どっしりとそびえる岩木山の山裾にかすみ立ち込め、さわやかで、味わい深い景観が広がっています。

入選 柿シャワー（南部町名久井）／ 市川 清一



【講評】魚眼レンズを使い、干し柿を真下から狙ったことで、見たことがない空間が広がりました。左右対称の物体が何なのか、題名を確認し、ようやく理解できました。

---

特別賞 つがる富士とりんご（黒石市）／ 三戸 俊彦



【講評】たわわに実ったりんごと奥にそびえる岩木山。ふもとは黄金色の田んぼが広がっています。正に津軽の秋を象徴するような作品です。ゆったりとカーブした道が作品に奥行きを与えています。

## ～ 人々の暮らし部門 ～

最優秀賞 早乙女に恋した馬（南部町剣吉）／ 工藤 茂雄



【講評】 県南地方に春を呼ぶ「南部地方えんぶり」。雪の残る境内から、にぎやかな祭りの雰囲気伝わってきます。「あれあれ、馬っこの面つけて」「早乙女だなんて、若い格好をして」。祭りの最中に知り合いを見つけたのでしょう。思わず旧交を温めているようにも見えます。二人の会話や笑い声が聞こえてきそうで、理屈抜きで楽しい作品です。

---

優秀賞 おじいちゃんの手作り（平川市新屋）／ 竹浪 和歌子



【講評】 おじいちゃんが果樹園にブランコを作ってくれたようです。子どもの満足そうな表情から、自分だけのブランコを手に入れた喜びが伝わってきます。たぶん、傍らではブランコを作ったおじいちゃんも優しい笑みを浮かべているに違いありません。ほのぼのとした家族愛が伝わる作品です。

優秀賞 あのね（八戸市新郷）／市川 清一



【講評】真っ赤に紅葉した木の下に、ハロウィーンが近いのでしょうか、ユニークな表情の置物がずらり並んでいます。傘を差し、しゃがみ込んだ人物が一つ一つに寄り添い、語り掛けているようです。「何か、いいことがあったの?」。表情は見えませんが、楽しい会話が聞こえてきそうです。

---

優秀賞 さなぶりを終えて笑顔に（五所川原市金木）／相馬 勉



【講評】金木地方のさなぶり行事、「虫送り」を終えた子どもたちが笑顔で円陣を組みました。撮影者は地面に寝転んで子どもたちの表情をアップで狙いました。「金木町虫送り」は近年、約30年ぶりに復活したようです。祭りの未来はこの子たちがしっかりと受け継いでいくはずです。

入選 カッチャ手どら（五所川原市高野）／ 佐々木 博光



【講評】 苗代作りの1コマでしょうか。泥に足をとられ、難儀する女性の姿に迷わずシャッターを押しました。うつむき加減で苦笑いしている女性の表情が印象的です。

---

特別賞 自然米づくり（中泊町亀山）／ 加藤 正一



【講評】 一心不乱に作業を続ける人々の傍らで、顔を見合わせ、話し込む男女。本当は忙しいはずなのに、二人の周囲だけ、のんびりとした時の流れがあるようです。それにしても日をさんさんと浴びて、青々とした緑がさわやかです。